



鶏けいめい鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

聖書の言葉

「さあ、天まで届く塔のある町を建て、有名になろう」

聖書(創世記11章4節)

牧師 河合裕志

ノアの大洪水の物語の次には「バベルの塔」の話が出て来る。これも聖書は読んだことはないけれど知っている、という人が時におられる。どんな話?

ノアの子孫の一団がシニアル(バビロン)の地に平野を見つけそこに住みつく。そこはティグリス川とユーフラテス川の間にある平野部。一団は話し合った。「れんがを作り、それをよく焼こう」。そして言った。「さあ、天まで届く塔のある町を建て、有名になろう。そして、全地に散らされることのないようにしましょう」。

以前渋沢栄一の生家のある埼玉県・深谷市を訪ねた。彼は当地でレンガ工場も始めた。その製品は東京駅に、また深谷駅に用いられた。横浜にもレンガ倉庫が残されていて美しい景観を見せている。レンガ作り、大いに結構。

ただ太古の昔、レンガを用いての天まで届く塔のある町の建設は神の怒りを買ったみたい。主(神)は言う。「彼らは一つの民で、皆一つの言葉を話しているから、このようなことをし始めたのだ。これでは、彼らは何を企てても、妨げることはできない。我々は降って行って、直ちに彼らの言葉を混乱させ、互いの言葉が聞き分けられぬようにしてしまおう」。

果して神はそのように実行し、彼らの言葉を困乱(バラル)させたのでこの町の名はバベル(困乱)と呼ばれるようになる。意志の疎通がはかれなくなった彼らは塔の建設を途中で止め全地に散って行くことに。これがバベルの物語のあらまし。

しかし不可解な話。なぜ塔建設がいけないのか。日本にも東京タワーがありスカイツリーがある。ランドマークタワーも。日本各地にタワーが見られる。結構なこと。どこがいけない。ポイントは「天まで届く塔」にありそう。天は神のいます所。この領分を侵すことに。自ら神となろうとする高慢に神は怒りを覚えたのでは?

今人間は神のようにふるまっているのでは? 科学・技術を過信し自然破壊に及んでいる。大量殺人兵器を製造している。個人の間、国家の間においても自らを神とし相手を一方的に悪として裁く。意志の疎通がはかれないうでいる。どうしたらいい。神の前に謙遜になることでは。そして神の造った自然と人間を大事にすること。人間よ、そろそろバベルから、困乱から目覚めよ。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前10時

牧師面談：水曜日午後1時~7時